

---

# 仮面ライダーW × AKB48

鯛焼き名人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーW × AKB48

### 【NZコード】

N4896Y

### 【作者名】

鯛焼き名人

### 【あらすじ】

財団Xの加頭順を倒し一年後また一人で一人の仮面ライダーになった翔太郎とフィリップしかしドーパントの事件はまだまだ続くそれは一人が好きな国民的アイドルAKB48にも魔の手が襲つていた突然行方不明になりAKBを裏切り他のグループに入るメンバーその真相は彼女達の過去にあった…

# 仮面ライダーW × AKB48 登場人物

## 主な登場人物

左 翔太郎

ハードボイルドに憧れる半人前探偵

鳴海探偵事務所で依頼を受け

フィリップと一緒にWドライバーとガイアメモリを使い仮面ライダーウとなりドーパントと戦う。

ミュージアムを倒し今は財団Xの調査をしている

女に甘いところが弱点

AKBのファンで篠田麻里子が推しらしい

## フィリップ

同じく鳴海探偵事務所の探偵で仮面ライダー、翔太郎の相棒。星の本棚に入りあらゆることが調べられる。いつもは事務所のガレージで調べごとをするが興味深いもの見つけると自ら外に出かける家族がいなくなつた後若菜姫の最後に聞いたラジオでオススメしていた「AKB48」のワードが出てそれを忘れないように毎日検索している。今ではAKBで知らないことはない柏木由紀が好きらしい

鳴海亜樹子

鳴海探偵事務所の所長で鳴海荘吉の娘

大阪出身で行動力のある20歳

照井竜と結婚して一緒に暮らしている

今は大阪の母親が倒れ実家に帰っている

照井竜

風都警察署の刑事

アクセルドライバーとアクセルメモリを使い仮面ライダーアクセルに変身する。

井坂に家族を殺され復讐を果たし亞樹子と平凡な家庭生活を送っている

鳴海亞香里

鳴海莊吉の妹の娘

南風都高校3年生で先月引っ越してきた

運動神経が高く明るい性格で、最近事務所に来ない亞樹子の代わりで翔太郎と事件の調査をしている。翔太郎のことをちやんと聞き亞樹子とは真逆

最新ガイアメモリ

フイリップがシュラウドが住んでいた家で見つけた4本のガイアメモリ。基本的にフォームチェンジでは使わず、マキシマムドライブの強化で使う。マキシマムスロット入れているがツインマキシマムみたいに過剰反応を起こさない

ドリルメモリ

螺旋の記憶

マキシマムを使うとドリル状の武器が追加されドーパントメモリを直接壊せる

スパイクメモリ

針山の記憶

針がついた鉄球が追加した攻撃で相手を殴り付ける

キューブメモリ

箱の記憶

このメモリはちょっと特殊で、マキシマムを使いつとキューブ型のシ

ールドが出現してフイリップ側のメモリによって性質を変える

サイクロンではバリアー

ヒートでは炎のブロック攻撃

ルナではキューブが相手を包み閉じめる

ホバー・メモリ

浮遊の記憶

宙に浮かび加速度を上げ普通の倍の威力を出す

サイクロンジヨーカーと相性がいい

# 仮面ライダーW × AKB Pの過去へピギンズナイト（前編）（前書き）

この物語はフィクションです。

実在の団体、人物が出てますが、全く関係ないです。

## 仮面ライダーW×AKB Pの過去ヘビギンズナイト（前編）

俺達は風都ホールへハードボイルダーに乗り急いでいた

フィリップ（以下フ）「翔太郎！…もつと急いでよ。間に合わないよ」

翔太郎（以下翔）「わーってるって…！」

今日は久しぶりの休みで俺達が大好きなAKB のコンサートを見に行つた。しかしこの後あんなことに繋がるとは俺もそしてフィリップも考えてなかつた…

翔太郎達はなんとかホールに到着して先にいた亜香里と会流した

亜香里（以下亜）「遅いですよ～翔太郎さん」

翔「わるいわるい、さあ行こうぜ」つてフィリップお前何だその格好！！

フィリップはいつの間にかハチマキにハッピをきて両手にはペンライトを持つていかにもつて感じだった

フ「いや、検索をしたらこれが一番いい服装だと書いていたから

翔「つたくお前はまいいか早く行くぞ」

三人は会場に入った。中は大勢の人で埋め尽くされていた。なんと

か場所を確保して始まるのを待っていた

フ「早く始まらないかな、特に柏木さんの夜風の仕業をききたいな  
あ」

亜「ほんと楽しみだね~」

三人がいろいろ話してるとステージに男が出てきた

男「え~今日のコンサートは前田敦子、大島、柏木、渡辺、小嶋、  
高橋、板野が都合によりお休みになりました本当にすいません」

観客席からざわめきや怒声が響いた、もちろん三人もだ。それもそのハズだ選抜総選挙で

トップ10入りしたメンバーが七人もいないのだから

翔「どーなってんだ?」

亜「そんなんどうして?」

フ「えつーじゃあ夜風の仕業聞けないの」

それでもコンサートは始まり終盤かなり盛り上がり上がったがフィリップには少し笑顔が消えた

コンサートが終わり帰る途中

翔「あつ、照井に刃さん!」

刃「よつ！翔太郎」

翔「何でいるんすか？」

刃「今日のコンサー<sup>ト</sup>の警備だよ。お前にそなにやつてる~。」

翔「コンサー<sup>ト</sup>見に来たんすよ。でも柏木さん<sup>がい</sup>なくて元気なくて」

すると照井が話してきた

照井（以下照）「そのことで話すことがある。実は彼女達は行方不明らしい」

フィリップが顔色を変えた

フ「照井竜！－それは本当か」

照「ああ、もしかしたらお前達の力を借りるからその時は頼む」

翔「わかった。いつでも来い」

しかしフィリップは

フ「翔太郎！－今すぐに調査を始めよう！－！」

フィリップは急いでバイクのほうに行つた

翔「おい！待てよフィリップ！」

亜「二人とも待つて～」

それから三人は事務所に戻りフィリップだけは調査を進めて一夜を過ごした

# 仮面ライダーW × AKB Pの過去へビギンズナイト（後編）（前書き）

この物語はフィクションです。

実在する団体、人物が出てますが、全く関係ないです。

## 仮面ライダーW×AKB Pの過去ヘビギンズナイト（後編）

AKBメンバー行方不明の調査から3日後、この日はあいにくの大雪だった。フィリップは悩んだ顔でガレージから出てきた

フ「駄目だ。検索しているがキーワードが少なすぎる」

翔「情報屋にも聞いてみたが手掛かり無しか…」

亜「二人は寝ずに調査を続けて体はもうボロボロだった。そこに亜香里がコーヒーを持ってきた

亜「二人ともしっかりして下さいよ。それにしても何処に行つてしまつたのでしょうかね？」

翔「それがわかつてたら苦労しねえよ」

そんな時翔太郎のスタッグフォンに照井から電話がきた

翔「どうした？ 照井」

照「この前の件だが行方不明になつたメンバー全員見つかつた」

翔「本当か！ 照井」

照「ああ、もう大丈夫だ」

すると事務所のインターホンが鳴った

翔「わらい、また掛けなおす」

翔太郎は電話を切り、ドアを開ける前に一人に話の内容を伝えドアを開けた。

三人はとまどった。そこにはずぶ濡れの女の人が倒れ込んできた。

翔「おい！大丈夫か！？しつかりしろー！」

翔太郎と亜香里は依頼人を事務所のベッドに寝かせたがフイリップは彼女の手に持っていた写真に手を取った

フ「これは……」

1時間後

依頼人が目をさました

翔太郎はコーヒーを渡した

翔「しつかし驚いたぜ、何であなたがここにいるんだ篠田麻里子さん」

今回の依頼人はAKB48の篠田麻里子だった

亜「サイン下さい」

亜香里の無茶ぶりにも応え翔太郎に話をした

篠田（以下篠）「実は…私のメンバーを助けて下さい」

翔「行方不明になつたメンバーか？それならさつき警察から連絡が  
…」

篠「テレビ見てないんですか？」

疑問に思いながら翔太郎は「コーヒーを飲みながらテレビをつけた。  
するとニュース番組がいてそこにはメンバーが写っていた

前田（以下前）「私達はAKBを脱退してハロプロで活動します」

大島（以下大）「これから的新しい私達を見てください」

翔太郎はコーヒーを吹いた  
フィリップも驚いた

翔「はあ…どうゆうひことだ！？」

亜「そんなの裏切り行為じゃない！？」

フ「いや、彼女らがそんなことするはずない

」

篠「そう。敦子やみなみ達ははAKBに人生をかけてきた。だから  
そんなこと絶対にあり得ないの」

フ「何か心当たりは？」

篠「そう言えば、5年前メンバーの体のどこかしらに変なマークが  
ついていたわ、それからたまに不審な行動をしていたわ」

「フィリップは小声で翔太郎に話かけた

フ「翔太郎、これはドーパントの仕業かもしれない」

翔「ああ」

翔太郎は篠田に近づき

翔「わかつた。その依頼引き受けたぜ」

篠「ありがとうございます。必ず命を救つて下さい」

そういうと篠田は安心してまた寝てしまった

翔「麻里子さんの看病は亜香里がして、フィリップは星の本棚で検索をしてくれ」

亜「了解しました」

しかしフィリップは

フ「僕も行かしてくれ、僕も本当のことを知りたいんだ」

翔「…わかつた。行くぞ相棒」

そうすると翔太郎は帽子をとり事務所を出た雨はいつの間にか止んでいた

翔「まずは新しい事務所に話を聞くか」

フ「そうだね。あと照井竜にも連絡しておこう」

二人はハードボイルダーに乗り彼女達の事務所に向かつた

# 仮面ライダーW × AKB Pの過去／向かい風は吹いている（前編）（前）

この物語はフィクションです。

実在の団体、人物の名前が出でますが、全く関係ないです。

## 仮面ライダーW×AKB Pの過去／向かい風は吹いている（前編）

翔太郎とフィリップは彼女達の新しい事務所に行つた、

そこにはすでに多くの新聞記者やカメラマンがいた。その端に赤いバイクと照井がいた。三人は裏口から事務所に入つた

三人は事務所を隠れながら彼女達の部屋を探した。そして事務所の一番暗い部屋のドアを開けると、そこには彼女達が椅子にただ座つていた。

翔「あんたらのお仲間さんに助け出すよつ依頼され来たさつさと脱出するぞ」

彼女達に返事はない。そして彼女達をよく見ると篠田の証言どおり体のどこかしらにくじゅくが羽を広げてているマークがついており冷たい目でどこかを見つめている。すると奥のほうから女の人の声が聞こえた

女「何を言つても無駄よ。その人達はあいつの操り人形なんだから」

柏木由紀だった。フィリップは彼女のもとに近づいた

フ「柏木さん！大丈夫ですか？」

柏木（以下柏）「そのマークが私達を操つていたの、最初は自分たちの力で抑えていたけどだんだんと力が強くなつて今では…」

フ「それは誰なんですか！？」

柏木が言いかけた時に、急に苦しみ始めた

フ「柏木さん！…柏木さん！…」

柏「奴は…ガ…イア」

そして柏木は苦しみながら首に着けていたペンドントを渡し他人と同じように無表情になつた

?「危ない、危ない もう少しで私の正体がバレるとこひでした」

部屋の前には鳥のよくなードーパントがいた。

照「やはりドーパントか」

翔「彼女達をびくつもりだ！」

?「私のために働いてもらう。6年間待ったかいがあつた」

フ「6年間？」

?「これからは私の物だ。さあお前達踊れ！…」

ドーパントが指示すると彼女達がいきなり立ち上がり笑顔で踊り出した

翔「そんなこと絶対にさせんか！…」

三人はベルトをつけメモリを取り出した

C Y C L O N E

JOKER

A C C E L

翔&amp;フ「変身!!!」

照「変……身……」

メモリをベルトに入れフィリップは倒れ仮面ライダーWと仮面ライダーアクセルに変身した。

W「行くぜ!!!」

Wはドーパント（以下D）に殴りかかり、アクセルはエンジンブレードできりかかつたが簡単に避けられ窓を壊し空へと逃げた。

W「逃がすか!!!」

Wはハーダーダービューラーに乗りドーパントを追っかけた

A「久しぶりに使うか」

アクセルはガイアメモリ強化アダプタをアクセルメモリに装着した

A C C E L U P G R E A D B U S T A R

アクセルの体は黄色くなりアクセルブースターとなり空へ飛んだ

二人はドーパントに追いつき攻撃をした

W 「おらあ。くらいな」

ENGINE JET

A B 「はあ！！」

攻撃は見事に命中してビルの最上階に落とした。ドーパントは叩き落とされひるんでいた

W 「まあ お片付けだ」

W とアクセルはマキシマムを出そうとした瞬間後ドーパントの後ろから白い服を着た一人の男がいた。

W 「あいつらは財団X」

財団1「その人は私達の大切な存在」

財団2「死ぬのはお前らだ。仮面ライダー」

すると男達はガイアメモリを体に挿しドーパントになつた

KILLER

DORAGON

W 「さすがヤバくなりそうだ」

W 「エクストリームだ翔太郎」

エクストリームメモリはファーリップのからだを吸収してW のところへ向かつた

EXTREME!!!!!!

W はCJXとなりプリズムビックカーを出現した

CJX 「まとめて相手にしてやるぜ」

キラーデーパント（以下KD）ヒドラゴンデーパント（DD）と謎のドーパント（?D）と戦つた。

AB 「左!...」ついで俺に任せて奴を倒せ!...」

CJX 「すまねえ照井」

CJX は?D にきりかかつた

プリズム マキシマムライブ

CJX 「プリズムブレイク!!」

しかし?D は冷静なこえで

?D 「いいのか?私を倒せば彼女達は一生あのままだぞ」

CJX 「何だと!..」

W は攻撃を止めた隙に、D の反撃をくらい、W はビルの最上階から落とされてしまった

C J X 「うわああああ――――！」

A B 「左――フィリップ――！」

A B はジェット噴射で W に追い付こうとしたが

A B 「くそ――間に合わない――！」

しかし W が地面に落ちる寸前に黒いオーロラが W を呑み込んだ

地面に降りた A B は驚いた

A B 「どこに行つたんだ……」

翔太郎は目をさました

二人は変身解除され、気がつけば公園に倒れていた。周囲にはさつきのビルが見当たらない

翔「おい！ フィリップ大丈夫か？」

フィリップも目をさました

フ「ああ、何とか」

翔「俺達どうなつているんだ？」

フ「多分、あの黒いオーロラのせいで別の次元に来てしまつたらし  
い」

翔「どうする？」

フ「とりあえずこの世界のことを調べて見よう」

翔「そうだな」

二人は公園を出て少し歩くとビルばかりの都会にきた。そこにはサラリーマンやメイドの格好をした人や色んなジャンルの人人がいた

フ「わかつた！－！」は秋葉原という町だ。AKB の本拠地だ。  
ぞくぞくするねえ」

翔「そんなところに飛ばされたのかよ。まあ丁度いいな彼女達の関係者達や他のメンバーにも詳しく調査しよう」

二人は少し歩いてAKB劇場があるドンキホーテの前にきたするとビラ配りしている女の子を見つけた。見た感じもらつてている人が少ない気がする

「AKB 48です。よろしくお願ひします」

AKB ?あんなに人気なメンバーがビラ配りなんて、一人はビラをもらいに行くと予想外な人物が配っていた。何とビラを配つていたのは依頼人の篠田麻里子だった

翔「麻里子さん！？何でいるんですか？」

篠田は焦っていた

篠「何で私を知ってるんですか？」

翔「いや、知ってるもなにも」

篠「でも嬉しいです。もしよかつたら今日の劇場来て下さい。席がらなのでその場で申し込めばOKです」

篠田はビラを渡した。翔太郎とフイリップは戸惑いながらビラをもらつてその場を後にした。

翔「どうなつているんだ」

するといビラを見ていたフイリップがいきなり話かけた

フ「翔太郎！－これを見たまえ」

秋元康プロデュース

A K B 4 8

今日2005年12月8日初公演スタート

翔「2005年つて6年前…」

フ「てこつことは僕達は…」

翔「過去に来ちました－－！」

フ「過去に来てしまつた－－！」

# 仮面ライダーW × AKB Pの過去／向かい風は吹いてくる（後編）（前書き）

この物語はフィクションです

実在の人物や団体が登場しますが全く関係ありません

## 仮面ライダーW×AKB Pの過去／向かい風は吹いている（後編）

フィリップは星の本棚に入っていた

フ「検索を初めよう。知りたい項目は敵のメモリの名前キーワード」

翔「まずはP」

本が絞られる

翔「次に鳥、最後に6年前だ」

勢い本が減り最後に一冊だけ残った

フ「見つけた」

フィリップは本を取りだし読んだ

フ「ピーコックというメモリだ、だけどこのメモリには人を操る能力をもつてはいないらしい」

翔「なんだって」

フ「今回の犯人は二つのメモリを使っている可能性がある」

翔「もしかしたら今日劇場に行けば犯人がわかるんじゃないかな」

フ「その可能性は十分ある」

翔「よし、行くぞー！」

二人は劇場に行つた。お金を払い中に入つた。篠田の言つてた通り人が少なくとても静かだつた。翔太郎は舞台裏にメモリガジエットを置き観客席に座つた。みた感じ怪しい人物は見当たらない。しかしある人を見つけた

翔「おい、あの人昔有名アイドルグループのプロデューサーだった天王寺つて人だ」

フ「それってどのくらい前だい？」

翔「この時代でも2、3年前ぐらいかな」

と話をしていたら公演が始まつた  
デビューしたてで緊張しているのがわかる。  
しかし一生懸命やつているのが一人にも伝わつてくる

公演が終わり

翔「何も起こらなかつたな」

フ「いや、まだわからない張り込みをしよう」

二人は劇場から出て、外で待機していると

翔「麻里子さん！？まだやつていたんですね」

昼間同じようにビラ配りをしていた篠田を見つけた。

篠「あつ！昼間の人」

翔「まだビラ配りしているんですか」

篠「少しでも色んな人に知つてもらえるように頑張っているんだけ  
ど疲れちゃいました、ファンもいなしあう辞めようかな」

すると翔太郎が

翔「何言つているですか！！あなたは選抜総選挙で3位になりじゃ  
んけん選抜で栄光の1位になる運でも実力でも最高の人なんですよ  
！！諦めちゃダメです」

篠田は聞いたこともないワードが出て混乱していた。

翔「それにファンがいないなら俺がファン1号になる」

フィリップが小声で

フ「さすがハーフボイルド」

篠「えつ！本当ですか嬉しいです！あの～お名前は…」

翔「俺は左翔太郎。探偵だ。こつちは相棒のフィリップ。困ったこ  
とがあつたらここに連絡して下さい」

翔太郎は名刺を渡す

篠「探偵さんですか、あと写真を撮つてもいいですか？」

篠田のデジカメで写真を撮つていると、スタッグフォンに連絡がきた。デンデンセンサーからだ

フ「ドーパントだ！彼女達が危ない」

翔「篠田さんあなたの仲間が危険です俺達を舞台裏に行かせ下さい」

篠「わかりました！！」

すぐさま劇場に戻り関係者しか入れない場所に行くと、倒れているメンバーがいた

篠「はるなー板野！！」

フィリップは彼女達にあの時と同じようなマークがついているのを見つけた

フ「翔太郎！！あの時のドーパントだ」

さらに奥に悲鳴が聞こえた、翔太郎は急いで行くとあの時と違うドーパントと前田敦子がいた。翔太郎はメモリガジェットで攻撃し、前田をドーパントから離した。

翔「おい、あの時のドーパントじゃねえぞ」

そこには金棒を持つた鬼みたひなドーパントがいた

フ「本当だ。どうなつているんだ」

翔「フィリップ！！とにかく変身だ」

篠田が着くと翔太郎とフィリップの腰にダブルドライバーが装着されガイアメモリを取り出した

CYCLONE

JOKER

翔&amp;フ「変身!!」

フィリップがガイアメモリを挿し倒れ翔太郎に転送され仮面ライダーW 变身した

CYCLONE JOKER

篠「か、仮面ライダー！？」

篠田は驚きながらも前田を連れて非難した

W 「 さあ行くぜ」

ドーパント（ロ）は金棒を振り回し攻撃してきた

W 「 おめえみたいのにはこれだ」

LUNA METAL

W はLMになりメタルシャフトで反撃した

W 「 翔太郎！！早めに終わらせよう」

そうするとWはスパイクメモリを腰のマキシマムスロットに挿すとメタルシャフトの両側に鉄球が付き自由自在に操って相手を追いつめていった

W「これで最後だ」

## METAL MAXIMUM DRIVE

### メタルスパイクイリュージョン

メタルシャフトの先端から無数の鉄球が放たれドーパントに命中して、人間態に戻った体内からはガイアメモリが出てきた

## PRISON 監獄の記憶のメモリだった

W「おい！お前だな彼女達を操るうとしている奴は……」

男「し、知らねえよ！！俺は心は奪えるけど操ることはできない」

W「翔太郎、このメモリも人を操る能力は持っていない」

?「その通り……仮面ライダー」

## PEACOCK

暗闇からピーコックドーパントが現れた。

P D「そいつは私の計画に大切な実験台だ」

P D「は砕けたメモリを拾い上げ男の前に出すと男はメモリに吸い

込まれると、ガイアメモリは元に戻りPDの体内に入り後ろの一本の羽が三本になった

W「貴様ー！」

PD「おつと、まだお前達と闘う訳にはいかないひとまず退散だ」

PDは持っていたパラレルメモリを使い黒いオーロラが出現し、中へと消えた。しかしWとフイリップの吸収したエクストリームメモリが何とかオーロラに入った

変身解除された翔太郎とフイリップはまた公園に落とされた

翔「痛いなー」

しかしふィリップはエクストリームに入つてたため無傷だった

フ「翔太郎、大丈夫かい？」

翔「ああ、ここは戻ったのか？」

フ「いや、まだここはさつきの時代から一年後の2007年4月8日だ」

翔「その日つて…」

フ「チームBの初公演だ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4896y/>

仮面ライダーW × AKB48

2011年11月23日20時46分発行